

平成21年度病害虫発生予報第1号

平成21年4月3日
愛知 県

1 普通作物

コムギは平年よりやや早く生育しており、イワイノダイチでは早めに播種したものが、^は現在出穂期を迎えています。農林61号も、今後気温が平年並に推移した場合、出穂期が3~4日程度平年よりも早くなると予測されています。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

イネの温湯種子消毒を行う際は、適切な処理温度、時間を守りましょう。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので、注意しましょう。その後は汚染がないよう管理しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

2 果樹

落葉果樹の生育は、地域や品種によりばらつきも見られますが、およそ平年並です。生育ステージにあわせた適期防除を心がけましょう。

小牧市と豊田市に設置したフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない状況ですが、有効積算温度を利用したモモハモグリガの飛来予測日は3月20日前後と平年に比べて早くなっています。新芽に卵や食入痕がないかよく観察し、防除適期を逃さないようにしましょう。

チャバネアオカメムシは、越冬密度調査の結果から、6月末までの飛来数は平年並と予測しています。詳細は、「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

3 野菜（露地）

タマネギでは、白色疫病とべと病の発生は平年並ですが、今後、気温が高く降雨が続くと、両病害とも発生の増加が心配されます。発生を確認したら、直ちに防除しましょう。

4 野菜（施設）

トマトでコナジラミ類の発生が過去10年間で最も多くなっています。またタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生も、ここ数年で最も多い状況が続いています。ローテーション防除を心がけ、コナジラミ類の防除を徹底しましょう。また、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してコナジラミ類を死滅させましょう。

トマト、ナス、イチゴでは、灰色かび病の発生が依然多い状況が続いています。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。

キュウリ、ナスではミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況が続いています。また、本種が媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）の発生が多く、ほ場で見られます。ローテーション防除を心がけ、ミナミキイロアザミウマの防除を徹底しましょう。

5 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加する時期になりますので、親株床も含めて適切に防除しましょう。

普通作物

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない 4月の降水量は平年並	- ±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない 4月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並 (やや早い)	全域	4月の気温は高く、降水量は平年並 生育はやや早い	± +

果樹

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の気温は高く、降水量は平年並	± ±
ナシ	赤星病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並 冬胞子堆の病斑数は平年並	± ± ±
	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量は多い 4月の降水量は平年並	+ ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	灰星病(花腐れ)	平年並	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±

2 防除対策

【ナシ黒星病】

りん片発病芽および新梢基部病斑は見つけ次第除去し、落花後にインダーフロアブル、アンビルフロアブルなどで防除しましょう。

野菜

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない。 4月の気温は高く、降水量は平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並	+ ±
	コナジラミ類	多い	全域	3月下旬の発生量は多い	+
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	多い	全域	3月下旬の発生量は多い 4月の日照時間は平年並	+ ±
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	3月下旬の発生量は多い	+
キュウリ (施設)	べと病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並	+ ±
	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並	± ±
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	3月下旬の発生量は多い	+
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	全域	3月下旬の発生量は多い 4月の日照時間は平年並	+ ±
	ミカンキイロアザミウマ	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±

2 防除対策

〔トマト(施設)、ナス(施設)、イチゴ(施設)・灰色かび病〕

平成21年3月5日発表の「平成20年度病害虫発生予報注意報第4号 トマト、ナス、キュウリ、イチゴ・灰色かび病」を参照してください。

〔トマト(施設)・コナジラミ類〕

ハチハチ乳剤やアプロードエースフロアブル(ミニトマトを除く)などで防除しましょう。マルハナバチを利用している場合は、マルハナバチへの影響日数を考慮して、コロマイト乳剤やチェス水和剤、微生物農薬などで防除しましょう。

〔ナス(施設)、キュウリ(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

平成21年3月19日発表の「平成20年度病害虫発生予報注意報第5号 キュウリ(施設)、ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ」を参照してください。

〔キュウリ（施設）・うどんこ病〕

病気が拡がると防除しにくくなります。発病前にダコニール1000やベルコートフロアブルなどを散布しましょう。発病が見られたら、速やかにパンチョTF顆粒水和剤、ラリー水和剤、モレスタン水和剤などで防除しましょう。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。

参考

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並 や や 多 い や や 少 ない 多 少 ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平 年 並 や や 早 い や や 遅 い 早 遅 い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台4月3日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%、2週目は高い確率60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%
〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%
〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです（4月4日～5月1日の晴れ日数の平年値は約16日）。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。